

部 署 紹 介

地域連携推進センター



令和元年度 第9期「子ども大学さやま・いるま」

○業務について

CommuLiC【コミュニック】(Community Liaison Center of Tokyo kasei University)

東京家政大学地域連携推進センター(通称名【コミュニック】)は、地域社会との連携協力の推進を資するための機関として、平成26年4月に、狭山校舎に開学した看護学部(今年度、健康科学部に改組)と子ども学部の開設に合わせて、大学の附置施設として、狭山校舎に設置されました。

改組後、5年目に入り、「地域課題解決に向けた連携・協力関係の構築」を目指して、本学の教育・研究の成果を地域社会で活用していただくために、自治体・諸団体・民間企業等との連携協力のもと、様々な事業を展開しています。

東京家政大学には、板橋校舎・狭山校舎の2つのキャンパスがあり、両校舎の教職員の協力のもと、学生とも関わりつつ活動を進めています。

センターは所長(山本学長)、次長の他5名のスタッフで、活動しております。

- ① 本学主体の公開講座等、多様な学習機会の実施
本学の専門性・特性を活かした多様な学習機会の提供(公開講座、講演会・シンポジウム等)
- ② 近隣市との連携による学習事業の開発・提供
近隣市の自治体・関連機関、諸団体との連携により、課題解決に向けた学習事業・学習プログラムの開発・提供(研修会・共催講座・子ども大学)
- ③ 調査研究事業の実施
近隣市の自治体、また、学内外の研究者との連携協力のもと、課題解決に向けて、調査研究を実施し、報告書を作成し公表。
- ④ 情報提供・講師紹介事業
各種ボランティア情報提供を中心に、関係機関からの要請による学生ボランティア募集・紹介等。
- ⑤ 近隣市との連絡協議会の設置
大学と近隣市との連絡協議会を設置し、連携によりそれぞれが有する機能を発揮できるよう、相互に協力し合いながら、地域と大学の活性化を図る
- ⑥ 研究部門及び協働研究の実施
2つの研究部門(地域社会事業研究部門・子ども支援・看護総合研究部門)を持ち、センターが独自に行う調査・研究に加え地域社会における関係機関との連携による調査研究の実施。

○応募者へのアドバイス

学校法人 渡辺学園 東京家政大学職員を目指す皆様へ

少子高齢化という局面がある中、大学がこれからも活動をするためには、「社会、世界から認められ、選ばれる大学」になること、そのためには、教職員が力を合わせて、様々な動きに対応しながら、新たな大学戦略への取り組みが求められています。

大学職員の業務は非常に多岐にわたり、また、人事異動もあるため、多種多様な仕事をこなすこととなり、知識・企画等、様々なスキルが求められます。

また、変化、動きに対応する中で、周囲への配慮を持つ姿勢、そして、柔軟に臨機応変な対応の他、あらゆる努力をしながら職務を遂行しなければなりません。

そのためには、大学という組織の一構成員としての自覚と、大学外の状況も知りつつ家政大学の文化の中で生きていこうという力強い意志が必要です。

是非、家政大学の「ファン」を増やし、「元気な大学」、「選ばれる大学」を目指していきましょう！！